

高等部 保健体育  
「バスケットボールをしよう」



バスケットボールの活動を通して、チームでの話し合い活動で課題に気づき、練習に取り組みゲームで実践する。練習したことができた喜びを味わうとともに、仲間と協力してゲームに積極的に取り組み、運動を楽しむ力を育む。

年間計画	
期間	種目
4～5月	体力テスト、体ほぐし運動
6月～9月	水泳
9月～11月	バスケットボール
12月	ハンドボール
1月～2月	サッカー

小中校の一貫性

学級	内容	目標
高等部	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の好きな運動を選んで実践できる</li> <li>様々な種目への取組 (選ぶ)</li> <li>チームで作戦会議・仲間との協力、共感</li> <li>体力の向上 (筋力)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活に必要な健康・安全に関する事柄を理解し、将来の生活を豊かにする態度の育成</li> <li>保健</li> </ul>
中学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動の経験を広げる</li> <li>ルールのある運動</li> <li>自分の身体・動きへの気づき</li> <li>相手を意識した取組</li> <li>体力の向上 (持久力)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>思春期における健全な心身の育成</li> <li>保健</li> </ul>
小学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動の楽しさ、喜びを感じ「好き」になる</li> <li>動きの基礎、基本 (走る、跳ぶ、投げる、物の操作)</li> <li>友だちと一緒に</li> <li>体力の向上 (調整力)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体の成長や健康に興味をもつ</li> <li>生活科 (健康管理)</li> </ul>

題材目標

知識・技能	シュートやパスなどの基礎的な動きを理解し、実践することができる。
思考・判断・表現	ルールを理解し、ゲームの進め方を工夫して実践することができる。
主体的に学習に取り組む態度	チームの一員として、友達と話し合ったり、自分の役割を果たしたりして、積極的にゲームに参加することができる。

審議のまとめ

～成果～

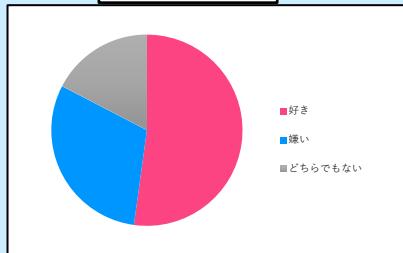
- 運動やスポーツが好きな児童生徒の割合が高まった
- 体力の低下傾向に歯止めがかかった
- 「する、みる、支える」のスポーツとの多様なかわりの必要性や公正、責任、健康・安全等態度の内容が身についた
- 子供たちの健康の大切さへの認識や健康・安全に関する基礎的な内容が身についた

～課題～

- 習得した知識や技能を活用して課題解決すること
- 学習したことを相手にわかりやすく伝えること等に課題があること
- 運動する子供とそうでない子供の二極化傾向が見られること
- 昭和60年ごろと比較すると依然として低い状況が見られること

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
<ul style="list-style-type: none"> <li>運動の特性に応じた行い方や運動の一般原則などの知識</li> <li>各種の運動が有する特性や魅力及び目的に応じた技能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できる思考力・判断力・表現力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯に渡って豊かなスポーツライフを継続し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度</li> </ul>

生徒の実態



- 小学校等でバスケットを経験したことがある生徒
- 運動は好きだが、技能が伴わない生徒
- リングまでボールを投げるのが難しい生徒
- ボールをはなすのが難しい生徒

様々な実態

卒業生の実態 (H28. フォローアップ調査から)



「充実した豊かな生活」を送るために！

大学の先生からのアドバイス

- 話し合い活動の中で、生徒主体はわかるが、練習内容や具体的な動きなど**教師からも意見を言うことも大切**。
- ゲームを成立させるために、**教師の介入も必要**。
- ボールに触れる回数を増やす。
- 良いことを発言した時に**教師がまとめる**ことが必要。
- 練習の仕方を選ばせたりポイントを明確にしたりする。
- 一人ではゲームに参加することが難しい生徒には、**ゲームを成立するための支援が必要**。
- まずは**3対3**くらいでパスを回す意識から。
- スペースを使うという練習でも**動きながら**パスをする。

授業における工夫

チームのメンバーを入れ替えずに固定

- お互いのスキルを考慮した発言
- アドバイスし合うことも

一人一人のスキルや役割が明らかに

チーム編成を生徒が主体的に決定することで、チームの団結力の向上を図る

なかなかシュートが入らない

ゴールのサポートエリア枠を意識する

棒で視覚的に指し示す

練習の時のシュートの成功率が上がった

グループ	黄	赤	緑
リンググループ (15人)	5人	5人	5人
バスケットグループ (11人)	青	赤	
	6人	5人	



グループの固定化

- 一人一人が「友達や教師と一緒に**する**」
- 「自分たちの動きを客観的に**みる**」
- 「互いに高めあえるよう**支え合う**」
- 「運動課題や解決方法に対して**知る**」

視覚的な支援

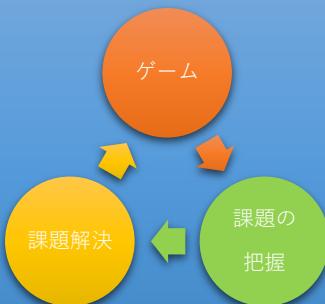
タブレットの活用



ゲームでの動きを客観的に把握できるように

ゲームをしていないチームが撮影することで全体で協力

客観的に見ることができ、話し合い活動での手がかりとなったことで、課題を視覚的に捉えるとともに、ゲームの円滑な進行へ



成果

成果① 客観的に自分たちの課題が見えるようになった

マイナスイメージが多く、自分のことを振り返りができていない様子

良い面もあり、専門的な言葉も増え、具体的な作戦が出てきた様子

成果② ゲーム中に声を出す場面が増えた

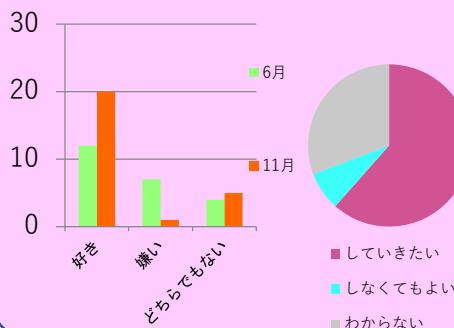
ゲーム中にもっと声を出そうという発言

ゲーム中に意識して名前を呼んだり指示したりすることができた

- チームとしてのまとまりを感じる
- コミュニケーションの深まり

主体的に判断しゲームに参加

成果③ 体育が好きになった、バスケットが好きになった人が増えた



課題

- 詳細な評価について
- 授業を豊かなスポーツライフに具体的に近づけるには